

大学の図書館

第42巻第4号 (No.593)

2023 4



目次

新新 NACSIS-CAT/ILL のリプレースに居合わせて 上村 順一 ... 43

特集：新 NACSIS-CAT/ILL のデータ移行作業に伴う NACSIS-CAT/ILL システム停止、
その時図書館は

国立大学における NACSIS-ILL システム停止時の ILL 対応についての
ウェブサイト広報 今野 創祐 ... 44

NACSIS-CAT 停止の概要と対応記録 相澤 裕介 ... 46

NACSIS-CAT/ILL 停止時の一事例 - ILL を中心に - 有田真理子 ... 49

案ずるより産むが易し—ある小規模大学図書館の ILL 対応事例 中島 慶子 ... 50

新新 NACSIS-CAT/ILL の リプレースに居合わせて

上村 順一

冒頭から恐縮ですが、この巻頭言、筆者は編集後記に近い位置付けだと考えています。ですので、まずこの巻頭言は読まず、本文(特集企画)をお読みの上で、ここに戻ってきてくださることを期待しております。もっとも戻ってこなくても、何の問題もない雑文です。

ほんの少し前まで、筆者は国立情報学研究所というところに勤務しておりました。そして、所属は学術コンテンツ課で、まさにこの NACSIS-CAT/ILL の移行の渦中にいたことになりました。と、申しても、筆者は、リプレース担当係長の孤軍奮闘を支援し、何らかの問題や障害があった際の相談係という役回り、実際の移行作業そのものには実は携わっていません。前述の「担当係長」は、大図研会員ではないのですが、『孤軍奮闘』は掛け値なしのところ、この方がいらっしやらなかつたら、今回のリプレースは失敗に終わっていた、と強く思っています。この場を借りて、特筆しつつ、深く御礼申し上げます。

もっとも、行きがかり上、筆者はこの案件の管理人的進行役でもありましたので、図書館総展その他で、わたくしの面をご覧になった方もいらっしやるのではないのでしょうか。汗顔の至りで

す。

特集企画の導入文中、『20年以上前の1999年12月17日(金)20:00から2000年1月7日(金)9:00までがあります。』という記述があります。このタイミング、筆者は就職4年目の、学術情報センター 事業部 目録情報課 雑誌目録情報係というところにいましたので、モロ担当だったはずですが、すみませんそのときの状況全く覚えておりません。バックエンドがオープン系(Unix)になったこと、漢字分かちインデクスができたこと、そして、CATPという新しい(と言いつつ、今使用している)プロトコルになった、のが特筆されるかな、くらいしか記憶にありません。記憶違いあったらごめんなさい。

時は流れ、今回、今までと全く異なる会社さんと組んで、リプレースをすることになりました。海外の、しかも2byte文字列圏でないところに本拠がある会社さんで、cut over後も若干のトラブルはございましたが、CATPを堅持するという方針の下、参加館各位にそれほどのご迷惑をおかけすることはなかったのではないかと、というのが筆者の自己評価です。甘いかな。担当から外れた、今の筆者的には、「新新」NACSIS-CAT/ILLの名称がどうなるのかが、最大の関心事です。

(うえむら・じゅんいち/琉球大学附属図書館)

特集 新NACSIS-CAT/ILLのデータ移行作業に伴う NACSIS-CAT/ILLシステム停止、その時図書館は

NACSIS-CAT/ILLシステムは、2023年1月に新NACSIS-CAT/ILLのデータ移行作業に伴い、システム停止となりました。停止期間は、2023年1月10日から31日まで、NACSIS-CATはメソッド（INSERT、UPDATE、DELETE）が1月10日（火）0:00から31日（火）9:00までが利用不可、メソッド（SEARCH、SCAN、RETRIEVE、INDEXLIST）が1月23日（月）0:00から31日（火）9:00までが利用不可、NACSIS-ILLはメソッド（全て）が1月23日（月）0:00から31日（火）9:00までが利用不可でした。

NACSIS-CAT/ILLシステム利用館では、2022年秋頃から図書館利用者向けにシステム停止についての告知がされています。告知内容は、新着図書の利用遅延、ILLによる複写物提供の遅延、システム停止期間中のILLの受付停止又は受付をしても処理はシステム稼働後等、さまざまでした。

NACSIS-CAT/ILLの長期にわたる停止は、20年以上前の1999年12月17日（金）20:00から2000年1月7日（金）9:00までがあります。この時の停止についてのシステム利用館の対応記録も少なく、当時現場にいた図書館職員も少なくなり、また当事者の記憶も曖昧です。

そこで、今回の特集では、NACSIS-CAT/ILLのシステム停止に係る図書館の対応を記録に残したいということで企画し、4名の方に執筆いただきました。システム停止期間中の対応で、今後の業務のヒントとなることがあれば幸いです。

（編集担当：学術基盤整備研究グループ）

国立大学における NACSIS-ILL システム停止時の ILL 対応について のウェブサイト広報

今野 創祐

1. はじめに

2023年1月より開始された、新NACSIS-CAT/ILLのデータ移行作業のため、NACSIS-CATは2023年1月10日0:00から1月31日9:00まで、NACSIS-ILLは2023年1月23日0:00から1月31日9:00まで停止することとなった¹。こうしたNACSIS-CAT/ILLの長期にわたる停止の前例としては、1999年12月17日20:00から2000年1月7日9:00までがあったが²、前回の停止時において、大学図書館がどのよ

うな対応をしたかの記録は、当時の図書館系の雑誌においてもほとんど記述が無く、現在伝わっていない。

本記事では、2023年のNACSIS-CAT/ILLの長期停止において、ILLという側面において、国立大学図書館がどのような対応をしたかを概観する。

2. NACSIS-ILLの長期停止時のILL対応

現在、日本の国立大学のほぼ全てがNACSIS-ILL 相殺参加館であり、ILL料金は相殺で支払っている。しかしこのことは必ずしも、NACSIS-ILL 相殺非参加館とのILLが不可能であることを意味しない。ILLの申込の手段として、NACSIS-ILLを通さず、直接

メールやFAX等で受付館へ貸借や複写を申し込むことも可能な場合がある。料金の支払いについても、利用者および経理事務担当者の希望や置かれている状況次第であるが、見積書・請求書・納品書等の書類を同封してもらい、支払うといった方法は事務的にはありうる。

そのため、脚注1で示したウェブサイトにおいても「NACSIS-ILL停止期間中のILLについては、CiNii Books (<https://ci.nii.ac.jp/books/>)で書誌・所蔵・参加館データをご覧いただくことができますので、NACSIS-ILLを通さず、直接メールやFAX等で対象館へお申込みいただく等のご検討をお願いいたします。[受付館のみなさまへ] ILLの停止期間中は、上記のILL直接依頼につきましてもご対応いただきますよう、何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。」という案内が記載されていた。それでは、国立大学図書館は、NACSIS-ILL停止時、利用者に対し、ILL直接依頼という方法を用いてでも、ILLのサービス継続を試みたのであろうか。

現代日本の大学図書館において、ILLは利用者にとって非常に重要なサービスであると考えられるため、多くの国立大学図書館は、利用者向けの広報として、自館のウェブサイトにおいてかかるNACSIS-ILLシステム停止について広報を実施した。以下、主要な国立大学図書館のウェブサイトの案内を参照し、その対応を概観する。

3. 各大学のウェブサイト広報

主に大学図書館のデザイン・広報に関するブログ「やわらか図書館学」の2022年12月18日の記事において、多くの国立大学のNACSIS-ILL停止の広報のウェブサイトへのリンクがまとめられている³。本節ではそれらウェブサイトの記載から、どのような広報がなされたのかを参照する。以下、参照した各大学のウェブサイトは、上記リンク先のも

のである。

3-1. 基本構造

最もシンプルと言って良い広報をおこなったのは東京大学である。見出しは「【2023年1月中旬～下旬】学外への複写・貸借遅延について」、本文は「1月中旬～下旬はシステムメンテナンスのため、学外への複写・貸借に大幅な時間がかかることが見込まれます。

お急ぎの場合はご注意ください。」である。広報において重要なことは簡潔かつ明瞭であることという考え方もあるだろうが、ここまで情報量の少ない広報に徹した大学は珍しい。多くの大学は、上記のシステム停止の具体的な日程(1/23-1/31)を書き添え、同システムのやや具体的な説明を書くとともに、現物貸借の場合、システム停止の影響で利用期間が短くなったり、一時的に入手困難になる可能性があることなども書き添えている。「1月12日(木)までに申込をお願いします」等、より具体的に、申込み締め切り日を設定している大学も見られた。

3-2. 代替手段を併記したケース

福井大学においては、電子ジャーナルや電子ブック等を検索して、資料の本文まで見られる場合があることや、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス(個人送信)、国立国会図書館遠隔複写サービス、福井県内相互貸借サービス(LiBox)、各大学のリポジトリ、訪問利用ができる可能性の指摘など、代替となりうる手段を列挙して広報した。

福井大学ほど詳細な記述でなくても、千葉大学や鳥取大学など、国立国会図書館や地域の公共図書館、また、学内における図書館ネットワーク内での相互貸借や複写物送付は可能である旨を記述している大学は見受けられた。

3-3. 急ぎの場合は対応する旨を記述してい

るケース

停止期間内の依頼は一律に完全シャットアウトとともれる広報をしている大学が多い中、急ぎの場合は対応する旨をウェブサイトに記載している大学も存在した。例えば、「期間中、至急取り寄せを希望する場合はご相談ください。その際、通常より時間と料金がかかることが予想されますので予めご承知おきください。」(富山大学)、「お急ぎの場合は、文献の入手方法をお調べしますので、お申し込み時にその旨、お伝えください。ただし、1月中は多くの図書館が受付を停止することが見込まれますため、ご希望に添えない場合がございます。」(東京工業大学)、「どうしても急ぎでの入手が必要な資料については、「速達」を指定の上、お申し込みください。ただし、受付業務を停止する機関が多く見込まれるため、入手には時間がかかる見通しです。」(奈良女子大学)等である。また、「学外からの論文・図書取寄せの申込受付を大幅縮小いたします」(岡山大学)といった表現を用いているケースもあった。数量的に見ると、脚注3で示したリンク集で取り上げられている45大学のうち、急ぎの場合は対応する等、完全に利用を中止とするわけではない旨が読み取れる広報をしている大学の数は16大学であった。

4. さいごに

以上の通り、脚注1で示したウェブサイトにおいては、NACSIS-ILLの停止期間中も、システムを介さない直接申込といった手段でILLを継続することが「お願い」されていたが、実際にはほとんどの大学がシステム停止中はILLそのものの依頼を中止する傾向が見られた。

なぜこうした対応がとられたのか、その理由については明らかでないが、やはりNACSIS-ILLの相殺による支払いに慣れた現代の大学図書館において、そうではない手法

での申込や料金支払いを、それも短期間のみおこなうことは負担が大きかったものと考えられる。

一方で、上述の通り、福井大学のように、NACSIS-ILLの停止の広報において、代替となりうる手段を広く広報することで、利用案内や利用者教育を目指した図書館も存在した。こうした広報の有り方は、今後の大学図書館における広報の参考となるのではないだろうか。

(いまの・そうすけ/東京学芸大学)

¹ これからの学術情報システム構築検討委員会「NACSIS-CAT/ILLシステム停止期間」
<https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw/catill/system-migration>

² 国立情報学研究所「ILLシステムニュース(No.77, 1999.9.17)」
<https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/news/ill/olnews/077.html>

³ やわらか図書館学「各国立大学のNACSIS-ILL停止の広報」
<https://yawatosho.hateblo.jp/entry/2022/12/18/154120>

※ウェブサイトは全て、2023年1月17日時点でアクセスを確認。

NACSIS-CAT 停止の概要と 対応記録

相澤 裕介

1. はじめに

NACSIS-CAT/ILL¹リプレイスに伴うデータ移行作業のため、2023年1月10日～22日にかけて部分的に、23日～31日午前9時にかけて全面的にシステムが使えない状態となった。本特集号では主にILL停止への対応事例が紹介されているが、本記事ではILLで

はなくCATを中心に、停止前後の情報を整理したうえで、勤務館における対応事例を紹介していきたい。なお対応事例に関しては筆者の担当の関係から雑誌業務メインになることをあらかじめお断りしておく。

2. NACSIS-CAT 停止の概要²

改めてCAT停止前夜～再稼働までの動きを時系列順に整理してみよう。

【2022年8月】1日に掲載されたNACSIS-CAT/ILL ニュースレター 51号において、2023年1月に最大で3週間程度のシステム停止を予定していること、停止スケジュール等の詳細については10月頃お知らせする予定であることがアナウンスされた。

【2022年10月】12日、前述の予報通りNACSIS及び「これから委員会」のWebサイト上で具体的な停止日程等が発表された。それと同時に本件に関する説明会を、10月27日・11月16日に行われることも告知された。ここで停止の具体的な内容が発表され、CAT に関しては INSERT・UPDATE・DELETE メソッドが2023年1月10日午前0時から31日の午前9時まで（＝NACSIS停止期間の全期間）利用不可になること、SEARCH・SCAN・RETRIEVE・INDEXLIST メソッドはやや遅れて1月23日午前0時から同じく31日の午前9時まで利用不可になることが発表された。これを実際の業務に即して言えばNACSIS上で書誌・所蔵データを新規作成・更新・削除することが約3週間、書誌・所蔵データを検索することが約1週間、できなくなるということになる。

【2023年1月】8日から9日にかけてシステム障害により一部サーバが停止するトラブルがあったものの、10日の停止開始からリプレイス完了までほぼ大きなトラブルなく経過した。25日に掲載されたNACSIS-CAT/ILL ニュースレター 52号において、リプレイス完了後の書誌・所蔵データ一括登録の取り扱

いについての記事が掲載されている。それによると、1月31日～2月5日は50件以上の書誌・所蔵データ一括登録は行わないでほしいこと、2月6日～2月14日にかけて地域ごと一括登録を行うこと、2月15日からは通常通り自由なタイミングでの更新が可能となることとされた。31日、予定通りリプレイスが完了した旨、各機関に通知されている。

【2023年2月】6日、「システム調整のため」書誌・所蔵データ一括登録スケジュールの延期が発表され、8日、所蔵データの削除・更新ができないなどの不具合が報告されている。17日にはシステム調整が完了し、一括登録が可能になったこと、不具合も解消されたことが通知された。一括登録に関してはスケジュールを改めて2月20日～3月1日にかけて地域ごとに行うこととされた。本記事執筆時点（2月20日）では3月2日から自由なタイミングでの更新作業が可能となる予定である。

3. CAT 停止期間中の対応

停止期間中、CAT部分について言えば全期間を通してNACSIS上での書誌・所蔵データの新規作成・更新・削除ができず、23日以降はそれに加えて検索もできないということになる。筆者は雑誌担当であり、書誌の新規作成・更新に関してはほとんど件数がないため影響がなかったものの、所蔵データの更新に関しては日常的業務の一部としてあり、対応を考える必要があった。

対応方法としては雑誌のデータ登録を一律ストップし、NACSIS再稼働後から開始するというシンプルな方法と、ローカル登録のみを行っておき、再稼働後にNACSISデータに反映するという方法があったが、結果として後者の方法をとることにした。ローカル処理をしたデータを後日特定・抽出できるようにしておけば、反映自体は難しくないように考えられたこと、登録を一時停止することによ

り、雑誌という資料の特性である速報性が失われてしまう懸念があったこと、などが判断理由である。おそらく多くの図書館も同じ対応をとったのではないかと思う。

4. 雑誌所蔵更新へのRPAの活用

察するにCATについては停止期間中よりも期間終了後の対応に苦慮した機関が比較的多いのではないだろうか。リプレイス完了後、書誌・所蔵データの更新が一時的に不可となる不具合や、一括登録スケジュールの延期などもあり、タイミングを見計らう必要が生じた。

勤務館では雑誌の登録に関して言えばそれほど件数は多くなく、リプレイス完了後は手作業で所蔵更新作業を行うことを想定していた。しかし実際の作業内容を考えるとローカル所蔵データのHLYR・HLVフィールドのデータをコピーしてNACSIS所蔵データの同じフィールドにペーストするだけの単純作業となる。個人的に大学図書館におけるRPAの実践例を様々な場所で見聞きしていた頃で、自館でもうまく使えないか思案していたところであった。勤務大学ではMicrosoft包括ライセンスを結んでおり、RPAツールPower Automateが利用できたので、これを使って所蔵更新作業を行うことにした³。

Power Automateでは個々の操作（アクション）を組み合わせて、一つの処理（フロー）を作成する。例えば図書館システムの操作は「Webページのボタンを押す」「Webページ内のテキストフィールドに入力する」などのアクションを組み合わせて行う。今回は事前に所蔵更新の対象となる書誌のNCIDをExcelに入力しておき、そこからデータを読み取ることを前提にしてフローを組み立てた。

結果として図書館システムの書誌検索画面を用意するフェーズ、Loop処理でExcelからデータを読み取るフェーズ、For each処

理でExcelから読み取ったNCIDで書誌検索をし、所蔵更新までを行うフェーズからなるフローが完成した。Excelの処理やLoop処理についてはWeb検索をして方法を調べる必要があったものの、約2時間半で完成させることができた。

リプレイス終了後、当初は地域ごとに設定された一括登録期間に所蔵更新作業を行う予定であったが、それが延期となり、再開時期もその時点では未定であったため、1度に行う処理を50件以下にして、複数回に分けてフローを実行することにした。初回はPCのスリープ機能が働いてしまい、フローが途中で止まってしまうトラブルがあったものの、2回目以降は問題なく処理を実行することができた。RPAを活用すること自体、CAT停止期間が始まってから決めたこともあり、全体として泥縄的な対応にはなったが、改めてRPAの持つ可能性を実感する機会となった。

5. おわりに

以上、一図書館員の立場から対応記録を述べてきたが、今回のリプレイスにあたって最も大変な思いをしたのは国立情報学研究所及び各ベンダーの皆様ではないかと思う。大学図書館にとって、なくてはならないNACSISというインフラを日々支え・維持して下さっている皆様にこの場を借りて感謝申し上げたい。そして新しく生まれ変わったNACSISからどのような学術情報流通の未来が広がっていくのか、私自身も楽しみにしている。

（あいざわ・ゆうすけ／学術基盤整備研究グループ・岩手大学図書館）

¹ 以下、NACSIS-CAT/ILLは「NACSIS」、NACSIS-CATは「CAT」、NACSIS-ILLは「ILL」と略記することにする。

² 典拠は逐一明示しないが、そのほとんどは

NACSISのWebサイト (<https://contents.nii.ac.jp/catill>) およびこれからの学術情報システム構築検討委員会（以下「これから委員会」）のWebサイト (<https://contents.nii.ac.jp/korekara>) に掲載された情報に拠っている。参照はいずれも2023年2月20日。

- ³ もちろん図書館システムに搭載されている所蔵アップロード機能を用いる方法も考えられたが、当館の場合、普段その機能を用いていないことから違う方法を採用した。寄贈雑誌の所蔵データには自館の利用者向けに、ローカルデータにだけ入力している項目があり、図書館システムの機能を用いるとそうしたデータも含めてアップロードされてしまうという事情もあった。この点、RPAを使えば必要な部分だけアップロードできるし、うまくいけば他の業務にも応用できるのではないかという目論見があった。

NACSIS-CAT/ILL 停止時の一事例 — ILL を中心に —

有田 真理子

1. はじめに

広島修道大学は、7学部13学科1専攻4研究科からなる文系私立大学で、蔵書数約91万冊の図書館の運営は図書受入を外部委託、その他雑誌受入、カウンター、ILL、レファレンス等を本学職員が担当している。従来ILLの傾向は受付が多かったが、COVID-19禍での他館訪問制限が続いた2021～2022年度は依頼が上回っている¹状況である。今回は、日常業務で多く携わるILL・レファレンスの観点を中心に報告する。

2. 本学のILL対応

ILLは発送の関係で、郵便担当部局の事務

取扱に準じて停止している。本学の場合、年末年始（12/29-1/3）、入試（2/1-5）が全学業務停止のため、例年約2開館日前に受付停止、約2開館日以降の再開を目安に停止する。今回のNACSIS再開日が本学入試直前だったことやその他の事情から、本学は受付・依頼ともに早めに停止した。

学内構成員への案内は図書館ホームページ²、学生へは学生専用ポータルサイト、教職員へはグループウェア掲示板を活用、さらにILL利用件数の多い教員全員へはメールで追加案内した。

- 1) 受付停止：2022年12月26日（月）9:00～2023年2月7日（火）9:00

ILLのポリシーに、本学のみ在所蔵資料で本学受付再開後以降では難しい場合は電話で相談を受ける旨追記した。

停止中は複写5件、貸借2件に対応した。相殺館には事前に電話やmail等で手法や金額を打ち合わせ、NACSIS再開・本学業務開始後の2月7日（火）に依頼入力してもらうことで相殺対応とした。

- 2) 依頼停止：2023年1月5日（木）9:00～2月7日（火）9:00

停止中は複写10件うちキャンセル6件（閲覧可能4・最新号1・個人事情1）、貸借4件うちキャンセル2件（公共図書館訪問2）の依頼があった。最終的に他館へ依頼する利用者に2月7日（火）以降の入手でよいか再確認し、その後依頼館を事前調査しておくことで再開後すぐ依頼できた。

- 3) 資料受入・登録業務

図書は、委託業者と事前協議し、INSERT、UPDATE、DELETEが停止する1月10日（火）から30日（月）を休業（実際は1月10日（火）残務整理し翌日より休業）、再開予定の31日（火）から業務再開、休業期間への対応として、例年業務停止する入試期間も委託した。結果的に近年の紙媒体資料受入冊数の減少もあり、大きな影響はなかつ

た。

雑誌は、自館OPAC反映を優先したため1月10日(火)以降はローカルのみで受入し、停止期間の受入データを後日NACSISに登録する手法をとった。当初指定日の2月8日(水)夜間に一括処理予定だったがNACSIS側の事情で延期、新たな設定日の翌日が祝日(2月23日)で万が一の事態に対応できないため、翌日に対応可能な3月2日(木)に実施予定である³。

4) その他

停止期間中のWebからのILL・資料購入サービス(教員図書・学生購入希望図書)申込は、2月7日以降の対応になる旨案内した。

3. 最後に

2022年10月のNACSISの長期停止スケジュール公開当初は、停止時期が本学の試験期間と重なっていたこともあり、利用者への説明と対応を案じた。

対応件数を停止期間のみで判断すると、例年と比べると圧倒的に依頼・受付ともに少なかった。ただ、停止前から再開後までの全体の流れを過去の動向と精査中のため、現時点で利用者へのサービス低下があったとは断言できない。停止前後のクレームもなく、むしろ、少なくともILL・レファレンスに関しては想定していた混乱はなかったと感じている。それは、長期停止に伴う他館ILL停止を予測し、10月以降に依頼のあった利用者や、授業内で実施する図書館ガイダンス内で教員や学生に対して、入手希望資料は早めに依頼する旨事前案内できたことも一要因と考える。レファレンス、特に所蔵調査で最新情報検索ツールの一つとしてNACSIS-CAT/ILLを活用することもあるが、インターネット上の多種多様な検索ツールを組み合わせ対応できたことから、問題はなかった。

今回は、日々の業務で他機関を含む各利用者の動向をある程度把握できていたことが、

本学の方向性を決定する上での拠りどころとなった。図書館の存在意義は資料と利用者との橋渡しにあると考えるが、サービス低下と評価されがちな今回の長期停止も、事前準備と柔軟な対応で最低限の業務が可能であること、そのために日々利用者と接し利用者の動向を見極め、そこから学ぶことが実は図書館の肝であることを再認識できたよい機会であった。

(ありた・まりこ/広島修道大学図書館)

注：URLおよび事象はすべて2023年2月28日時点での情報である。

¹ 広島修道大学「情報公開 7-2-5 図書館相互利用 (5年間)」

<https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/htpcot0000002enf-att/7-2-5-2021.pdf>

² 広島修道大学図書館「【重要】利用者向けサービス(文献複写、現物貸借、図書購入申込等)の一時停止について【2023.01.05更新】」

<https://library.shudo-u.ac.jp/top/ja/node/737>

³ 本稿最終確認日時点においては、図書システム業者との調整中のため同日実施延期の可能性もある。

案ずるより産むが易し—ある小規模大学図書館のILL対応事例

中島 慶子

今回、2023年1月下旬の新システムへのデータ移行に伴う現行システム停止に際し、本稿では筆者の担当業務であるILLに焦点を絞り、筆者の所属する本学図書館(以下、当館)の対応について述べる。

本学は経営学部および理学療法学科・看護学科を有する保健医療学部の2学部3学科の小規模大学であり、ILL業務の半数以上は医

療系の依頼・受付が占めている。

システム再開後から順次行う

1. 当館のILLサービス概況と学内の状況把握

まず、対応を検討する前に、当館における過去5年間の複写および現物貸借の依頼・受付実績を利用統計で確認することから始めた。

| | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 平均値 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 複写依頼総数 | 596 | 602 | 271 | 252 | 195 | 383 |
| うち1月 | 32 | 11 | 24 | 9 | 6 | 16 |
| 1月割合 | 5% | 2% | 9% | 4% | 3% | 5% |
| 貸借依頼総数 | 27 | 25 | 10 | 22 | 19 | 21 |
| うち1月 | 3 | 3 | 3 | 4 | 3 | 3 |
| 1月割合 | 11% | 12% | 30% | 18% | 16% | 17% |
| 複写受付総数 | 320 | 349 | 293 | 353 | 404 | 344 |
| うち1月 | 38 | 25 | 24 | 18 | 23 | 26 |
| 1月割合 | 12% | 7% | 8% | 5% | 6% | 8% |
| 貸借受付総数 | 34 | 16 | 16 | 16 | 29 | 22 |
| うち1月 | 2 | 0 | 2 | 2 | 8 | 3 |
| 1月割合 | 6% | 0% | 13% | 13% | 28% | 12% |

表1 過去5年間のILL実績

表1のとおり、年度によるばらつきがあるため、平均値を算出した。

今回のシステム停止期間は、折しも本学の一般入試と秋学期定期試験期間と重なるため、本学利用者からの複写・現物貸借依頼はほとんどない（可能性が高い）ことが予想された。

受付についても、全国的なシステム停止のため、NACSIS参加館からはよほどの事情がない限りシステム停止期間中の申込はないことが予想された。

2. 当館の対応原則と広報

そこで当館の現状をふまえた上で、下記の対応原則に基づいて業務を行うこととした。

- ・1/20（金）午前中まで、および1/31（火）9:00以降は、通常どおり本学利用者の依頼処理、他機関からの受付処理を行う
- ・1/23（月）0:00～1/31（火）9:00のILLシステム完全停止期間は、他機関からの依頼はFAX、メールで受付。但し、当該停止期間受付分の処理は1/31（火）9:00以降の

なお、当館のILLサービスの対象者は本学に所属する学生および教職員のみである。当館サイトで広報を行うよりも、本学で導入しているポータルシステムUNIVERSAL PASSPORTの掲示機能を活用して、利用者一人一人に向けて告知を行った方が有効だと判断し、2022年12月に広報を行った。

3. 結果

今年度（2023年1月末現在）のILL実績は、表2のとおりであった。

| | 2022年度※ | ※1月まで |
|--------|---------|-------|
| 複写依頼総数 | 220 | |
| うち1月 | 31 | |
| 1月割合 | 14% | |
| 貸借依頼総数 | 10 | |
| うち1月 | 0 | |
| 1月割合 | 0% | |
| 複写受付総数 | 323 | |
| うち1月 | 13 | |
| 1月割合 | 4% | |
| 貸借受付総数 | 13 | |
| うち1月 | 2 | |
| 1月割合 | 15% | |

表2 2022年度のILL実績

また2023年1月の結果は下記のとおりであった。

- ・複写依頼は全てシステム停止前に駆け込みで教員・院生から依頼があったもので、システム停止期間中の依頼はなかった
- ・複写受付は全てシステム停止前後にあり、システム停止期間中の依頼はなかった
- ・貸借受付は、システム停止期間中にNACSIS非参加館（公共図書館）から1件あり、ローカル処理で対応した

4. 結び

ILLは、時に突発的な申込が来るため万が一の場合を案じたものの、杞憂に終わった。

今回のNACSIS-CAT/ILLシステム停止による影響は、ILL業務に関しては当館ではほ

大学の図書館 第42巻第4号 (No.593) 2023年4月25日 (毎月25日発行) ISSN : 0286-6854
編集・発行 : 大学図書館研究会 年間予約購読料 : 送料共6,000円

□大学図書館研究会出版部 (出版物購入・問い合わせ窓口)

〒195-8585 東京都町田市金井ヶ丘5-1-1 和光大学図書・情報館気付

Fax : (044) 989-2250 E-mail : shuppan@daitoken.com

<出版物購入代金等振込先> ゆうちょ銀行 振替口座 : 00140-6-482205 大学図書館研究会出版部

三菱UFJ銀行 越谷駅前支店 普通口座 : 1403054 大学図書館研究会出版部

□大学図書館研究会事務局

〒305-8550 茨城県つくば市春日1-2 筑波大学図書館情報メディア系 呑海研究室気付

E-mail : dtk_office@daitoken.com

<会費振込先> ゆうちょ銀行 振替口座 : 00190-2-79769 大学図書館研究会

とんどなかったと言えよう。

(なかじま・けいこ)

豊橋創造大学附属図書館)

2023/2024年度会費納入のお願い

大学図書館研究会事務局会費徴収担当

大学図書館研究会の会費は、会則第15条に定められているとおり、前納制です。

大学図書館研究会会則 (抄)

第15条 この会の経費は会費、事業収入および寄付金でまかない、会員は会費として年額5,000円を前納しなければなりません。

(中略)

4 この会の会計年度は7月1日より始まり、翌年6月30日に終わります。

2023/2024年度が始まる、2023年7月1日よりも前に、会費の納入をお願い申し上げます。

グループご所属の方は、グループ活動費も合わせてお納めください。

詳しくは、別にメールリストへお送りします「2023/2024年度 (2023年7月～2024年6月) 会費納入のお願い」をご覧ください。(5月下旬～6月初旬送付予定) なお、昨今に事情にかんがみまして、特段の事情があり6月30日までの会費の納入が難しい場合は、ご相談ください。

会の安定的な運営のため、ご協力をお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

会費納入について : 事務局会費徴収担当 kaihi@daitoken.com